



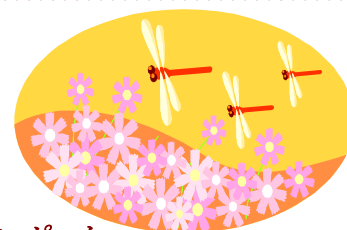
平成25年9月2日(月)発行【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第107号

【目次】

1. 小集団活動全社発表会
2. 首都圏LC/太陽光発電設備の設置
3. 次世代のトラック走行技術開発動向
4. 川崎油槽所/SUSタンク増設
5. 場所自慢 海外編 ~上海~
6. 社内講習会「化学品の基礎知識・物性教育」受講レポート
7. 社内講演会「設備管理の現状と未来」受講レポート



1. 小集団活動全社発表会

7月12日に、当社の黒崎支社において小集団活動全社大会を開催しました。1982年度よりスタートした本活動も今回で29回目を迎え、全社99グループの中から選ばれた7グループに加え、当社の海外拠点の一つであるタイのSiam Chemical Logisticsのグループも迎えての8グループで発表会を行いました。

発表テーマは、①尼崎油槽所:”KAITEKI”な油槽所を目指して、②鹿島支社:ローリー管理情報の共有化と水平展開活動によるトラブル削減、③四日市支社:ラッピングフィルム包装不良撲滅、④水島支社:自主保全による棧橋ビットの修繕と管理体制の構築、⑤東日本エリア営業部:ごみ分別による美ビッド職場(FISHカルチャー/シアトルの魚市場に学ぶ)、⑥Siam Chemical Logistics:SCL

改善活動、⑦坂出支社:C系積出機集塵粉の回収作業方法改善、⑧黒崎支社:石英ガラス管加工作業改善、と多岐にわたる発表内容でした。

各グループいずれ劣らぬ興味深い内容でしたが、当日4グループ(黒崎支社、坂出支社、水島支社、四日市支社)を優秀グループとして選出し、その中から黒崎支社の「クリスタルQ」が11月に四日市で予定されている「三菱化学グループ小集団活動発表会」の当社代表に決定しました。



石川社長(前列中央)を囲んで

2. 首都圏LC／太陽光発電設備の設置

当社首都圏ロジスティクスセンター(埼玉県加須市)では、3号倉庫屋上に太陽光発電設備の設置を行っています。太陽光発電設備は太陽光を電気エネルギーにする太陽光パネル、発生した電気を変換するパワーコンディショナー、変換した電気を送電する高圧受電設備(キュービクル)からなります。今回第一ステップとして太陽光パネルの敷設が8月1日に完了しました。

敷設した太陽光パネルは490枚で設置面積は約807㎡となり、年間約118,000KWhの出力を見込んでいます。太陽光パネルを敷設することのメリットとして遮熱効果が挙げられます。今回設置した3号倉庫は4F建ての倉庫で約30mの高さがあり、夏期の庫内温度は最高で40℃以上になります。当該敷設により庫内温度を数度抑制できる為、夏期の作業環境改善に繋がることを期待しています。

またパワーコンディショナーとキュービクルは年明けに設置予定です、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用して、東京電力へ売電を計画しています。

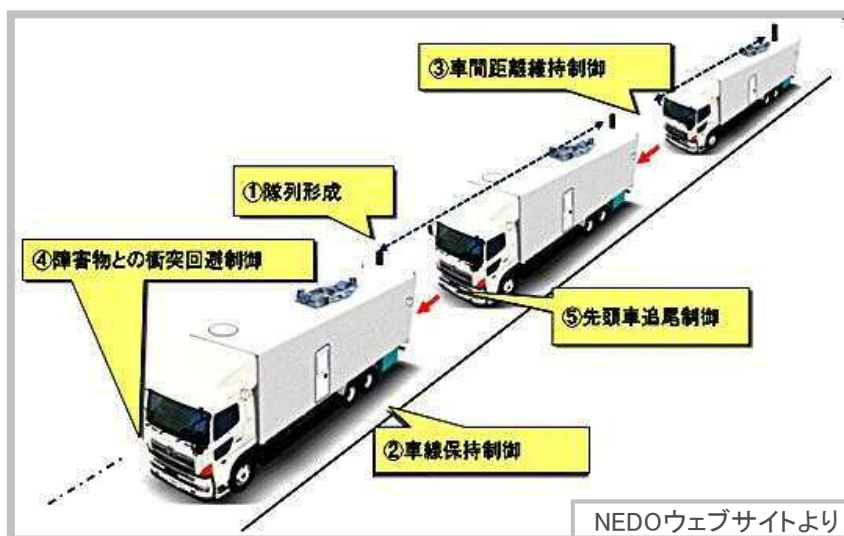


3. 次世代のトラック走行技術開発動向

昨年9月の本誌でも取り上げましたが、交通事故の削減を目的とした先進安全自動車(ASV)については、産官学が協力して技術の開発・実用化・普及に向け取り組んでいます。国土交通省が事務局を務めるASV推進計画は「先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車」の普及により交通事故削減を目指すものですが、次世代自動車技術の開発は安全面だけでなく他の分野でも盛んに行われています。今回は独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が進めている自動運転・隊列走行技術の研究開発についてご紹介します。

本年2月、NEDOのエネルギーITSプロジェクトでは、産業技術総合研究所つくばセンターのテストコースにおける自動運転・隊列走行の様態を公開しました。今回は車車間通信を用いた車間距離制御と前方障害物認識技術を国内大型車メーカー4社の大型トラックに適用し、車間距離4mでの隊列走行を実現しました。プロジェクトでは、車間距離を短くした隊列走行により、空気抵抗低減による省エネと、単位道路距離あたりの走行台数増加による交通流円滑化が見込めるとしています。

実用化が進めば物流の安全性、効率性も一層向上するものと期待されます。



NEDOウェブサイトより

4. 川崎油槽所／SUSタンク増設

神奈川県川崎市(千鳥地区石化コンビナート内)に位置する当社川崎油槽所ではケミカルタンクを現在34基保有しております。

*タンクヤード設備能力

【SUSタンク】370～ 800KL 7基

【SSタンク】 97～2,950KL 25基

【非危険物】630～1,500KL 2基

この度、新設のステンレス(SUS)タンク2基の建設を5月下旬に着工し、今年9月末の完成を目指しております。

これによりタンクは全部で36基、そのうちSUSタンクは9基となり、同油槽所のSUS比率は基数ベースで20.6%から25.0%へとアップすることになります。

タンクのSUS化を進めることで国内の事業基盤を拡充し多様なニーズによりきめ細かく対応できる体制を整え、ビジネスの拡大につなげていきたいと考えております。



5. 場所自慢 海外編 ～上海～

三菱化学(上海)有限公司は外高橋保税区内に倉庫を所有する商貿型企業として2002年8月に設立されました。当社は同社に出資しており、設立当初より要員を派遣、当社の上海拠点としての機能ならびに主に以下のような業務を担って参りました。

①三菱化学(上海)有限公司の物流管理業務、A社(上海)の営業 窓口、物流スキーム検討

②三菱化学(中国)商貿有限公司、貿易物流部としての物流管理業務、新規案件物流スキーム検討

③三菱ケミカルホールディングスグループ会社との情報共有及び発信

上海市は長江河口南岸に位置し、人口2400万人強の中国最大かつ世界有数の経済都市です。1843年に締結された南京条約により上海港は対外貿易港として開港して以来発展し、現在コンテナ取扱量はシンガポール、香港を凌ぎ世界1位となっています。上海の生活の中で一番苦労するのは言葉の壁です。四声という発音を間違えると全く意思疎通ができませんし、カタコトの英語も通じないことが多く、いち早く中国語を覚えるべく奮闘中です。

また、荷主の立場で仕事をしているのでその中での立ち位置、グループ会社各駐在員との付き合い等、まだまだ気苦労が絶えません。

上海では上海蟹、焼き小籠包を代表とする上海料理を始め、広東、四川、北京などの中国各地の名物料理やイタリアン、フレンチ、スペイン料理などの各国料理を食べることができます。日本料理店は約2000店あると言われ、焼肉、お好み焼き、寿司、京のおばんざいまで揃います。中国でありながら中国らしく無いというのが上海の特徴かも知れません。外国文化の影響を強く受けた上海は幾多の文化が入り乱れ、粋にとらわれない多様さがあると思います。

黄浦江西側では中国らしい街並と欧風の街並が区切りも無く共存し、黄浦江東側では現在の中国の勢いを象徴するかのような高層ビル群が林立しており経済成長のエネルギーを感じます。上海の空港までは羽田、成田から約3時間、福岡空港からは約1時間半と国内感覚でアクセス出来ますので是非一度訪れてみて下さい！



6. 社内講習会「化学品の基礎知識・物性教育」受講レポート

当社では長年にわたり危険物や毒劇物を含む多種多様な化学品を取り扱っています。それらの物流業務において、製品特性(=物性)の理解は安全で効率的な作業のために、絶対に欠かせません。

従来は、取扱製品の物性教育は担当する各部署内で実施されていましたが、今回は全社員を対象に実施されている講習会「化学品の基礎知識・物性教育」について、7月4日に受講した内容をご紹介します。



この講習会は4回シリーズで構成され、「化学品の基本物性と毒性・薬傷」が今回(第1回)の主な内容です。具体的には、**引火性**(引火の仕組みや火源の例)、**毒性**(致死量やどのように体内に吸収されるか)、**SDS**(安全データシート)の見方、**薬傷**(薬傷の事例、対処法)、などを学習しました。

当社では今後も各種講習会・研修会を開催するなどし、社員一人一人が化学品物流のエキスパートとして幅広い知識を身に付けて参ります。

7. 社内講演会「設備管理の現状と未来」受講レポート

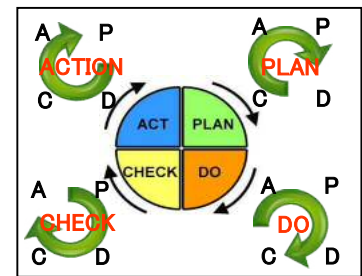
6月27日に社内で設備管理に関する講演会が開催され、受講しました。

講師は三菱化学社設備技術部の林和弘フェローで、これまでの経験や今後の設備管理のあるべき姿に近づけるための取り組みなど盛りだくさんの講演内容でした。

その中でも特に興味深かったのは、設備管理において重要な事は、基本であるPDCAを確実に回す事であり、各プロセス(Plan・Do・Check・Action)の中でさらにPDCAを回す事が大事であるという内容については、改めてPDCAの重要さが理解出来ました。

また、今までは何をすべきかというInputだけに注力してCheck・Actionが弱点であったが、マネジメントを向上させるための仕組みとしてパフォーマンス評価(指標)をプロセスモデル化し管理していく事が重要という事でした。

たしかに指標がある事で現在の状況を定量的に把握できるため、非常によい仕組みであると感じました。今回、直接的には業務とは関係はありませんでしたが、今後の効率化検討の中でPDCAを上手く業務に取り入れていきたいと思えます。



ソリューション営業部 磯部 浩誠

セミの鳴声が聞こえ、いまだ夏真っ盛りで、過酷な季節はいつまで続くのでしょうか。約千年前の平安時代から鎌倉時代にかけては、気温が非常に高かったらしいのですが、近年の猛暑はその頃と比べても、更に暑く、今年は千年に一度の「千年猛暑」とも言われています。通勤途中や外出した際、汗が止まらないこともあるのではないのでしょうか。これほど暑くては動物達も涼しい場所を求めて行動し、いつかは地下で夏が過ぎるのを待つ、夏眠を取る動物が急増するかもしれません。私も夏カゼや熱中症にかかり「夏眠」を取らぬよう健康管理には十分気をつけていきたいです。